

## 審査結果の要旨

報告番号	甲 第 125 / 号	氏名	中野 慎也
審査担当者	主査     山下 裕史朗 (印) 副主査   谷崎 孝孝 (印) 副主査   西 昭徳 (印)		
主論文題目 : Comparison of changes in oxygenated hemoglobin during the tree-drawing task between patients with schizophrenia and healthy controls (統合失調症患者と健常者の樹木画課題中の酸素化ヘモグロビン変動の比較)			

### 審査結果の要旨 (意見)

樹木画テストは、統合失調症 (SZ) 患者を対象に使用されることが多い投影法心理検査であるが、樹木画テストの認知機能に関する研究は乏しい。中野らは、樹木の自由描画課題と模写課題の両課題における酸素化ヘモグロビン ([oxy-Hb]) 変動を NIRS を用いて測定し、対照群における自由描画課題中の両側前頭極および下前頭領域の [oxy-Hb] 変動は模写課題中より大きく、患者群における自由描画課題中の左中前頭、両側下前頭、両側下頭頂、左上側頭領域の [oxy-Hb] 変動が対照群より小さいことを見出した。本研究は、SZ 群と対照群で樹木画中の脳血行動態に違いを発見した初めての研究である。NIRS による評価は、樹木画テストの客観的アセスメント法として使え、SZ の診断補助、他疾患との鑑別、治療効果の評価など、将来の臨床応用が期待される。学位論文にふさわしい内容である。

### 論文要旨

樹木画テストは統合失調症 (SZ) 患者の内的な異常体験を表出する投映法心理検査として使用されている。しかし、SZ 患者が描く特徴的な樹木画に認知機能が関与しているという見解が広く受け入れられているにもかかわらず、精神生理学的にそれを検討した研究はない。本研究は、SZ 患者における樹木画への認知機能の関与を調べることを目的とした。そのために近赤外分光法 (NIRS) を用い、樹木画課題中の SZ 患者群の脳機能を評価し、健常対照群と比較した。

被検者は SZ 患者 28 名および健常者 28 名であった。樹木を自由に想像して描く課題 (自由描画課題) と樹木画を模写する課題 (模写課題) の両課題における酸素化ヘモグロビン ([oxy-Hb]) 変動を NIRS を用いて測定した。

課題の条件間差については、対照群における自由描画課題中の両側前頭極および下前頭領域の [oxy-Hb] 変動は模写課題中より大きかった。群間差については、患者群における自由描画課題中の左中前頭、両側下前頭、両側下頭頂、左上側頭領域の [oxy-Hb] 変動が対照群より小さかった。したがって、我々の結果は SZ 患者の脳機能障害が樹木画テストの描画と関連している可能性を示唆する。